平成２５年度　学　校　評　価　表

雫石町立南畑小学校

経営理念	『明るく　かしこく　たくましく』を求めて	教育目標	○　明るく助け合う子ども　　○　かしこく工夫する子ども　　○　たくましく根気強い子ども
		経営の重点	１　社会の変化に対応する教育の推進（「いわて型コミュニティースクール構想の実践」）　２　確かな学力をはぐくむ教育の推進 ３　豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進　　４　健やかな体をはぐくむ教育の推進

評価計画					自己評価			学校関係者評価				改善計画
	まなびフェスト	達成のための方策	評価指数	目標値	7月達成値	1月達成値	結果と課題の説明	イ	ロ	ハ	コメント	改善案
明るく助け合う子	・「元気な挨拶・返事」を進んでできるようにする。＜学校＞ ・家族にも近所の人たちにも進んで「元気な挨拶・返事」をする。＜家庭＞	・学級経営の充実、好ましい人間関係と集団生活のルール指導の徹底 ・基本的な生活習慣を確立するための家庭と連携した取組の推進	習慣化できた児童の割合（教師・保護者による評価）	８５	83	93	「朝の挨拶運動」等地道な努力が実を結び、元気な挨拶や返事ができる子の割合が飛躍的に伸びた。	５	１	０	・日本人の民度は世界的にも稀なほど立派だと言われているが、子どもの頃から育まれる人間関係・社会生活のルール指導が根底にあると思う。結果に満足することなく、立派な日本人を育てるために継続を期待したい。 ・満足のいく結果が出ていることは、ご同慶のいたり。今後も大事な運動として取り組んでいただきたい。 ・元気にあいさつをしてくれる子が目立ってきた。 ・低学年もはずかしい気持ちがなくなり、元気に挨拶ができるようになった。自分から進んで挨拶をする子が増えた。 ・暑い日、寒い日、毎日の活動ごくろうさまでした。その甲斐があって子どもたちの方から声をかけてくれることが多くなったと思います。中学校に入っても、南畑の子どもたちは地域の方に積極的に挨拶をしてくれます。学校の地道な活動の成果だと思いました。	○大変満足のいく結果であった。来年度も教育振興運動の一環として継続して「元気な挨拶・返事」に取り組んでいく。
	・「係活動・清掃」などに協力して取り組ませる。＜学校＞ ・家族の一員として、「自分の仕事」を行う。＜家庭＞		習慣化できた児童の割合（教師・保護者による評価）	８５	75	66	家庭でのお手伝いの習慣化ができている児童が３１人中１５人と７月より２名減り、改善されていない。	３	２	１	・家庭での手伝いは、言われなければ行動ができない。自分から進んで行動できる意識を持たせたい。 ・保護者との十分な連携が必要と思われる。 ・冬になって外のお手伝いが減ったようです。家の中では決められたことをやっているようです。 ・お手伝いは、その取り組む姿勢やどうやったら効率良く物事を進めていくか等を考える力がつくことにつながると思うので、チェックカード等を利用して、家庭との連携を強めていけば良いと思います	○家でのお手伝いの習慣化に関しては、児童や保護者にお手伝いの大切さを理解してもらい、保護者と連携して取り組んでいく。
かしこく工夫する子	・習った漢字と計算を確実にできるようにする。＜学校＞ （１、２、３年…９０％以上 ４、５、６年…８５％以上） ・毎日家庭学習をする。＜家庭＞ （１、２年…２０分以上 ３・４年…４０分以上 ５・６年…６０分以上）	・漢字・計算検定の実施 ・朝学習、ステップアップタイムの充実 ・家庭学習と授業の連動 ・ノーゲームデーの取組の推進	学年ごとの目標達成の割合 家庭での学習の様子（保護者による評価）	８５	83	87	「毎日家庭学習をする」に関して、達成できた児童が３１人中２６人と７月より２名増え、やや改善された。	５	０	１	・改善傾向が見られたことは大変すばらしい。引き続き県・全国平均を上回るように期待したい。 ・ややとはいえ、「改善傾向」が見られたとこは喜ばしい。この結果を励みに一層の改善を目指していきたい。 ・家庭学習は、時間を決めているが、親が確認するまでやっていない時が見受けられる。（冬は特に、寒い所から帰って来て部屋に入ると眠ってしまう。） ・「毎日家庭学習をする」はとても良いことだと思います。７月よりも２名増えたのは、「ノーゲームデー」などを設け、学校と家庭との連携が少しずつ出来ていることだと思うので、これからも取り組んでいければよいと思います。	○毎日の家庭学習に関して、やや改善傾向が見られた。習慣化できていない児童が固定化しており、来年度も保護者と連携して取り組んでいく。 ○来年度は、全国や県の学習状況調査でも全国平均や県平均　を上回るようにいろいろな手立てを講じていく。
	・読書活動に積極的に取り組む。＜学校＞ （１、２年…１００冊以上 ３、４年…　６０冊以上 ５、６年…　４０冊以上） ・夏休み、冬休みには親子読書に取り組む。　＜家庭＞	・本に親しむ活動の充実 ・各学年の「おすすめの本」の紹介	学年ごとの目標達成の割合 家庭での学習の様子（保護者による評価）	８５	51	64	読書の目標冊数を上回った児童が３１人中 20 人と７月より４名増えた。しかし、高学年で目標冊数に達していない児童が多く、さらなる取り組みが必要である。	４	１	１	・読書から得ることの出来る物事に対する興味や感動は、思惟する心を育み、人間性を培う最良の手段であり、特に高学年の読書習慣を期待したい。同時に低学年時の読書指導が習慣化に継続性を植えつけることにつながると思う。 ・困難な課題ではあろうと思う。あきらめずに継続して取り組んでいただきたい。 ・長期休業の親子読書で読書の楽しさを感じていると思うので、今後も続けて欲しい。ちょっとしたことがきっかけで子どもが本の世界に飛び込むようになればいいと思う。 ・朝読書の期間をもう少し長くしてもよいのではないでしょうか。	○「読書の活性化」を２学期の重点とし、全職員が取り組んできたことが良い結果に結びついた。高学年の読書冊数の引き上げについては、来年度も継続して取り組んでいく。
たくましく根気強い子	・時間を守って「リズムある学校生活」を過ごす。＜学校＞ ・「早寝・早起き・朝ごはん」を行う。＜家庭＞ （※寝る時刻の目標 １、２年…９時前 ３、４年…９時 ５、６年…９時３０分）	・チャイム席、５分前行動の励行 ・好ましい食生活と食事のマナー指導の徹底	習慣化できた児童の割合（教師・保護者による評価）	９０	83	89	学校での「リズムある学校生活」を過ごすことに関しては、３１人中２９人ができており、飛躍的に改善された。家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化ができていない児童が７月より２名増えて５名となった。	４	１	１	・正しい生活は、人の行為の規準となる最低限の秩序、きまりが守られて成立すると思います。規律ある生活、行動を身に付ける事は、信頼される人間として成長させる為にも積極的な取り組みを願います。 ・良い結果が出ており、大変喜ばしい。学校側の地道なフォローが報われたものと思うが、気を緩めずに更に取り組んでいただきたい。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」は規則的な生活の基本であり、体調管理にも貢献できる大事な行動であり、今後も 100%に取り組んで欲しい。 ・家庭との連携がもっと必要だと思います。チェックシートなどを活用してみても良いと思います。	○児童一人一人の実態把握に努め、保護者と連携して改善に取り組んでいく。
	・給食後の「歯みがき」に取り組む。＜学校＞ ・休みの日の食後に「歯みがき」をする。＜家庭＞	・歯みがき指導の推進	習慣化できた児童の割合（教師・保護者による評価）	９０	87	81	休みの日に歯みがきができている児童は３１人中１９人である。７月より５名減の大幅な減少である。	４	１	１	・保健委員会の集まりで見た盛岡地区の統計で雫石の子どもが他地区に比べて圧倒的にむし歯率が高かった。高学年でも必ず親の仕上げが重要だと思う。 ・１日３回のうち２回は家庭のことなので、親の意識を高める必要がある。学校保健委員会での学校歯科医の先生のお話を PTA 全体が知る機会があればいいと思う。	○歯みがきの習慣化に関しては、全員達成を目指して保護者と連携した取り組みを進めていく。
	・「マラソン」や「縄跳び」に取り組む。＜学校＞ ・縄跳びや外遊びをする。＜家庭＞	・「はつらつタイム」の継続的な推進 ・「歩く習慣」「外遊び」の奨励	習慣化できた児童の割合（教師・保護者による評価）	９０	91	93	満足のいく結果であった。家庭での縄跳びや外遊びといった体力つくりに関しても、だいぶ改善された。	３	２	１	・南畑の子どもは概ね運動量が多いと思う。運動の得意な子どもが苦手な子どもに教えて和を作り、切磋琢磨して欲しい。 ・校内マラソン大会の実施は、子どもの運動に対する興味関心のきっかけづくりになり、大変良かったと思う。 ・はつらつタイムなど学校での取り組みもあり、子どもたちの運動量は増えてきていると思う。登下校は、もう少し歩かせる方向でいければもっと良いと思う。	○今の状況を維持していきたい。来年度も、いろいろな取り組みを通して、児童の体力つくりを図っていく。

【学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。